

# 地方独立行政法人 北松中央病院

## 設立趣意書

北松中央病院は、昭和24年に当時の石炭福利協会が、中小炭鉱が多い北松地区の医療を支えるために建設したもので、その後産業復興公団・大蔵省へと移管されたあと、江迎町が昭和25年3月16日江迎総合病院(内科・外科 72床)として開院しました。昭和28年には結核病床50床を増設し、昭和43年4月の全面改築により県北唯一の122床の総合病院となりました。改築後も順調な経営を続けていましたが、全国的に広まった看護婦夜勤制限闘争などにより病院を閉鎖するか否かの瀬戸際に立ち、最終的に昭和45年4月1日より北松浦郡医師会に経営を委託し公設民営という全国でも珍しい運営形態で経営してまいりました。昭和54年5月には、平戸市、松浦市、北松全町村を対象とした救急2次の指定を受け、また、昭和61年には、医療の高度化に対応するためと県立佐々療養所の廃止に伴いその役割を北松中央病院が担うこととなったため全面建替えを行い一般病床224床、結核病床75床の299床となり名実ともに県北医療の中核病院となり、経営も医師会、病院のご努力により順調に運営が続けられています。

しかしながら、北松浦医師会から市町村合併により医師会の再編が行われ医師会員が減少するなどの理由で平成17年3月末をもって委託契約を解除したいと申し入れがありました。

このため病院の新たな受け皿を作る必要があります。新たな受け皿として関係者と協議した結果、地方独立行政法人を選択いたしました。

北松中央病院が地方独立行政法人に移行することにより、従来の公設民営というメリットを生かしながら①更なる医療の充実、②医師の確保、③独立採算制の継続、④地元への経済効果が見込まれ地域住民の健康増進、疾病予防に多大な貢献が期待できますので、是非「地方独立行政法人 北松中央病院」の設立につきまして認可いただきますようお願い申し上げます。